

総合的な学習の時間における「学び方技能」を身に付けさせる指導の工夫
ー学習ヒントのあるワークシートとルーブリックの活用を通して(3年)ー

南城市立知念小学校教諭 玉 城 桂 子

内容の概要

総合的な学習の時間において「学び方技能」を身に付けさせる指導の工夫を行った。学習ヒントのあるワークシートを活用して、各学習過程での学習の進め方を理解させていった。また、ルーブリックを活用して、学習のねらいに基づいた自己評価をさせ、学習の振り返りをさせていった。その結果、児童は総合的な学習の時間での「学び方技能」について理解し、身に付けることができた。

【キーワード】 総合的な学習の時間 学び方技能 ワークシート
 ルーブリック 自己評価

目 次

I	テーマ設定の理由	37
II	研究仮説と検証計画	
1	研究仮説	38
2	検証計画	38
III	研究内容	
1	「学び方技能」について	38
2	学習ヒントのあるワークシートについて	39
3	評価について	41
IV	授業実践	
1	単元名	42
2	単元設定理由	42
3	単元の指導目標	43
4	単元の評価規準	43
5	指導計画と評価計画	43
6	本時の学習	44
7	授業の考察	45
V	研究の考察	
1	学習ヒントのあるワークシートを手引きとして活用することはできたか	47
2	ルーブリックを活用して自己評価することで、学習の振り返りができたか	48
3	「学び方技能」は身に付けることはできたか	48
VI	研究の成果と今後の課題	
1	研究の成果	48
2	今後の課題	48

総合的な学習の時間における「学び方技能」を身に付けさせる指導の工夫
ー学習ヒントのあるワークシートとループリックの活用を通して(3年)ー

南城市立知念小学校教諭 玉 城 桂 子

I テーマ設定の理由

総合的な学習の時間のねらいから

学習指導要領では、(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、(2)学び方やものの考え方を身に付け問題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること、(3)各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること、をねらいとしている。総合的な学習の時間では、課題について何らかの知識を身に付けることや、課題を具体的に解決することが目的ではない。体験的な学習、問題解決的な学習、調べ方や学び方の育成を図る学習などが重視され、自ら調べ・まとめ・発表する活動、話し合いや討論の活動が活発に行われることが必要である。そこで、総合的な学習の時間で学習を進めて行くには、問題解決学習や探求活動で求められる、調べたり、まとめたり、発表したりする活動に直接関わるスキル「学び方技能」を身に付けていくことが重要であると考ええる。



課題からこれまでの実践の

これまで実践してきた中でいろいろな課題が見えてきた。その一つは、児童に「学び方技能」を身に付けさせることが十分でなかったことである。「学び方技能」が身に付いてないため、児童が主体的に学習を進めるときに、何をしたらよいのか理解させることが難しかった。もう一つは、評価観点や規準が曖昧であったことである。総合的な学習の時間では学校独自の評価規準を設けていた。だが、評価観点が多くなったり、評価基準が曖昧になったりして客観的評価が難しかった。



本研究にあたって

初めて総合的な学習の時間に出会う3年生には、課題解決学習を通して「学び方技能」を身に付けさせることが重要である。まず、それぞれの学習過程において学習ヒントのあるワークシートを作成する。そのワークシートを学び方の手引きとして児童に活用させることで学び方技能を身に付けさせたい。児童が主体的に学習していく中で、他の教科で身に付けた基礎・基本も生きて働くように学習ヒントのあるワークシートを作成していく。ワークシートで学習を進めることで「学び方技能」が身に付いてくるだろう。

次に評価の工夫として、評価観点を4観点に設定する。教師は単元の評価規準だけでなく、学習過程や、学習活動でも評価規準を具体的に設定する。これまで主観や印象で評価されがちであった態度や技能が、より客観的に評価できるようにするためにループリックを取り入れる。さらに児童と共有することで、自己評価や相互評価の視点を客観的に把握し、明確な目標を持って学習に取り組むことができると考える。自分がどんなことができたか、どこまでできたかを自己評価し、自己学習の推進に役立てることができよう。

Ⅱ 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

総合的な学習の時間において、次のような手だてをすることによって、児童は「学び方技能」を身に付けることができるであろう。

- (1) 「ふれる・つかむ、追究する、まとめる、発表する」の学習過程において学習ヒントのあるワークシートを作成し、手引きとして活用させる。
- (2) ルーブリックを活用した自己評価をすることで、自分の学び方のレベルを知り、学習の振り返りをさせる。

2 検証計画

対象児童 教科名・単元名		小学校3年 24人 総合的な学習の時間「ゴーヤーのひみつを見つけよう」	
検証項目	検証の場面	検証の観点	検証方法
投入条件(1)	各学習過程においてヒントのあるワークシート使って学習を進めている場面	学習ヒントのあるワークシートを学び方の手引きとして活用させることは有効か ①「つかむ・ふれる」過程で、課題を作ることができる ②「追究する」過程で課題について調べる方法を考えることができる ③「まとめる」過程で、みんながわかるようなポスターにまとめることができる ④「発表する」過程でみんなにわかるように発表することができる	各学習過程の終了後、「学び方技能」が身に付いたかを把握するために、次の方法を用いる ①各学習過程において「学び方技能」が理解できたかを、アンケートで調べる ②児童の自己評価から、その時間の「学び方技能」が理解できたか評価する ③学級全体の80%以上の児童が「学び方技能」を理解できたら有効とする
投入条件(2)	各学習過程終了後、めあてを規範にして自己評価をする場面	ルーブリックを活用した自己評価をすることで、自分の学び方のレベルを知り、児童に自分の学習の振り返りをさせることは有効か	・ルーブリックで自己評価したことをもとに感想を書かせる ・学習終了後、ルーブリックを使った自己評価についてアンケートをとる ・学級全体の80%以上の児童が学習の振り返りをすることができたら有効とする
結果	投入条件(1)(2)の結果より	学習ヒントのあるワークシートの活用と、ルーブリックを活用した自己評価は、「学び方技能」を身に付けさせるために有効であったか	各学習過程において行ったアンケート結果と、児童が行った自己評価の分析から検証する

Ⅲ 研究内容

1 「学び方技能」について

学び方を学ぶ
学習スキル

(1) 「学び方技能」とは

「学び方技能」とは「学び方を学ぶ」ために必要な学習スキルのことである。学習過程においてどのように疑問を持たせ課題を設定することができるか、どうすれば必要な情報を集め活用することができるか、どのようにしたら相手に伝えることができるかなどを身に付けさせる学習のことである。総合的な学習の時間において「学び方技能」を身に付けさせていくことが重要である。また、総合的な学習の時間だけでなく各教科でも身に付けさせていくことも必要である。

本研究では、学び方技能を『身に付けること』を、学び方技能を『経験して習い、覚えること』と捉える。

学び方技能と
教科との関連

(2) 総合的な学習の時間における「学び方技能」と関連教科

3年生は総合的な学習の時間の入門期である。3年生においては「学び方技能」を個人で身に付けることが中心になる。「学び方技能」をしっかりと身に付けなければ、課題を解決し、自らの考えを深めていくことは難しい。そのために、これまでの教科学習で身に付けた基礎・基本をもとにして、「学び方技能」を身に付け、学習を進めることが大切である。表1は、学習過程における「学び方技能」と、総合的な学習の時間を進めるために必要と考えられる関連教科の基礎・基本、及び単元名である。

表 1 学習過程における学び方技能と関連教科

過程	学び方技能	関連教科と主な単元名、目標
ふ れ る ・ つ か む	◇「はてな」発見技能 ◇観察や実物などから問題を発見する技能 ◇イメージ作りの技能（ウェビング） ◇調べたいことを考える技能 ◇課題をさがす技能 ◇課題を決める技能 ◇学習計画を立てる技能 （どのような情報をどんな方法で収集するのか、どのような活動をするのか）	【生活科】 ○具体的な活動を通して自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる 【社会】 （単元名）町探検をしよう （目標）町探検をするための計画を自分たちで立てて探検する
追 求 す る	◇見学技能（調べ学習の心得） ◇調べる方法を考える技能 ◇図書館の活用技能（学校図書館、公共図書館） ◇インタビューする技能 ◇観察する技能 ◇ものづくりや生産活動をする技能 ◇話し合いをして考える技能	【社会】 ○学校図書館や公立図書館、コンピュータなどを活用して資料の収集・活用・整理などを行うようにする （単元名）さあまちへとびだそう （目標）資料収集や調査などの活動方法や留意点をとらえることができるようにする 【国語】 ○疑問に思ったことなどについて関係のある図書資料を探して読むこと
ま と め る	◇情報を整理する技能 ◇調べたことをまとめる技能（わかったこと、思ったことや考えたこと、次にやってみたいことなど） ◇言葉や文章で表現する技能 ◇絵で表現する技能	【国語】 ○相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにする。 （単元名）いろいろなお祭りについて調べよう【11月教材】 （目標）お祭りごとに内容を正しく読み取り、お祭りや行事について調べたことを整理して紹介する （単元名）つたえたいことをはっきりさせて書こう【12月教材】 （目標）身近な暮らしの中から自分が興味を持ったことについて調べ、記録文を書く 【社会】 ○地域における社会事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現する （単元名）見つめてみよう私たちのまち （目標）町探検で調べてきたことをポスターに表して、気づいたことや思ったことを発表しあうことができるようにする 【理科】 （単元名）ぐんぐんのびろ （目標）・変化の過程や成長変化の特徴を正しく記録することができる ・同じ植物での時間経過による変化などについて考察することができる
発 表 す る	◇いろいろな発表の方法を考える技能 ◇相手や目的に応じた発表の方法を考える技能（声の大きさはどれくらいか、どの方向を見て発表するか、相手に伝わる言葉はどのようなものか、どんな絵や写真や資料をつかったらいいか） ◇友だちの発表を聞いてお互いによいところを見つける技能 ◇自己を振り返る技能	【国語】 ○伝えたいことを選び考えがわかるように筋道を立てて相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと （単元名）自分をしようかいするスピーチをしよう （目標）自分について知らせたいことを選び、声の大きさや話すはやさを考えて話したり、話し手の話の内容を考えながら聞いたりする （単元名）どちらがすき （目標）大事なことが正しく伝わるように話し方や聞き方を工夫する ○話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること ○互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うこと 【生活科】 ○気づいたことや楽しかったことなどを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする

2 学習ヒントのあるワークシートについて

学習活動を支援するワークシート

(1) 学習ヒントのあるワークシートの意義

学習ヒントのあるワークシートは、児童の総合的な学習の時間の活動を支援するものである。例えば野外観察をしようとしてる児童が、その経験や知識がないことがわかったとき、「野外観察の方法」といった学習のヒントが提示される必要がある。その学習ヒントを活用することで、児童は野外観察に必要な道具や方法を自分たちなりに考え、活動していくことができると考えられる。総合的な学習の時間に

ヒントで学習を進めるワークシート

課題づくりと学習計画を立てるワークシート

話を聞くことを活動の中心とする理由

児童が考える人材リスト

活動カードの活用

追究する活動に必要なワークシート

簡条書きでのまとめ方

社会科で学習したことを振り返る

において学習のヒントを活用しながら学習を展開することで、学び方を身に付けていくであろう。

(2) 学習ヒントのあるワークシートを取り入れた学習指導の工夫

本研究ではすべての過程で学習ヒントのあるワークシートを取り入れる。学習ヒントのあるワークシートを取り入れることで、総合的な学習の時間で身に付けさせたい力について学習させることができる。また、これまで各教科等で身に付けた基礎・基本も関連付けて学習を進めていく。それぞれの過程においてワークシートを活用し次のような学習の進め方をする。

① ふれる・つかむ過程

ふれる・つかむ過程で身に付けさせたい力は、課題作りと学習の計画を立てることである。まず、事象に興味関心を持たせるために、ゴーヤーの商品などの具体物を使用する。ウェビングをしてイメージを広げ、その中から課題となるものを探す。その後学習計画を立てる。これらをワークシートを通して学習させる。

② 追究する過程

追究する過程で身に付けさせたい力は、情報を収集する力である。情報を収集する時に一番の基本となることは、人に聞くことである。これは、コミュニケーション能力を高めることにおいても有効な手段である。だが、聞雲に人に聞いては計画性がない。そこで、資料1の「だれかに聞いてみよう」というワークシートを作成する。これは自分の課題について質問したい人は誰か、自分なりに人材をリストアップさせる。また、質問内容が課題からそれないように、自分の課題をしっかりと確認させるようにしたい。

課題について調べたことは、「活動カード」に書かせる。その中には調べたことだけでなく、驚いたことや、自分が考えたこと、評価なども書かせる。

そのほかにも、インタビューや電話をかけるときに、どのようなことに気をつけたらいいか考えさせるワークシートも作成する。

③ まとめる過程

まとめる過程で、身に付けさせたい力は、調べたことやわかったことを相手にわかるようにまとめることである。ここでは、児童が調べたことを簡条書きにまとめることができるワークシートを取り入れる。児童の多くは、調べたことを簡条書きにするのにとっても手間取る。そこで、調べてきたことの中で、自分がみんなに伝えたいことは何か、わかったことは何かを考えさせる。考えたことをワークシートに短い文(簡条書き)でまとめさせる。社会科単元「見つめてみよう私たちのまち」で作ったポスターを見せ、もっとわかりやすいポスターを考えさせる。ポスターを書くときどんなことに気をつけるか、レイアウトの方法やポスターを書くときに大事なことをヒントにしてワークシートを作成させる。

だれかに聞いてみよう

3年 組 ()

人に聞く前に考えましょう

★だれに聞いたらいいか考えましょう。

1.自分のよく知っている人に聞いてみましょう。どんな人がある？

2.自分のかたいのことで知っている人に聞いてみましょう。どんな人がある？

☆どんなことを聞いたらいいか考えましょう。

考えるときは、自分のかたいのことから考えましょう。

もう一度見てみよう！ 自分のかたいは何？

これらのことを考えてから、じっさいに聞くことを考えてみましょう。そうこうのかたい調べのスタートです

資料1 ヒント付きワークシート

国語で学習したことを振り返る

④ 発表する過程

発表する過程で身に付けさせたい力は、自分の考えと相手の考えを比較すること、相手にわかるように表現することである。自分が調べたことを伝えるとき、どのようなことに気をつけたらいいか、国語単元「自分をしょうかいするスピーチをしよう」から考えさせる。発表原稿をワークシートで作成させる。また、発表を聞いたあと、初めてわかったをワークシートに書かせ、発表させる。ここから相互評価ができると考える。

3 評価について

4 観点での評価規準

(1) 評価観点の明確化

本研究では、国立教育政策研究所の資料を参考に「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点を基本にして評価規準を作成した。「関心・意欲・態度」は「なぜ○○なんだろう」とか「どうして○○だろう」といった疑問や興味を持つことであり、そこから学習が始まる。「関心・意欲」に支えられながら、「どんな方法で調べたらいいか」「どのように伝えたらよいか」を自分なりに考える学習能力を「思考・判断」とする。課題を追究し、調べたことやわかったことを自分なりにまとめる学習能力を「技能・表現」とする。そして、調べてわかったことやできるようになったこと、これからこんなことがしたいという自分の学びを、自分のものにしていく能力を「知識・理解」とする。評価の4つの観点は学習活動を構成する4つの側面であり能力である。

総合的な学習の時間の評価は、教科のように試験の成績によって数値的に評価することは適当ではない。だが、児童の達成状況をはっきりさせるために基準を設けておく必要がある。そうでないと評価が曖昧になったり主観的になったりする。本研究では、4観点をういた評価規準表を作成した。表2は4観点をういた評価規準表である。

総合的な学習の時間の評価

表2 観点別評価規準表

評価の観点	目 標	
	中 学 年	高 学 年
関心・意欲・態度	○具体的な事象に興味関心を持ち、疑問に思ったことを進んで調べようとする ○自分の役割を自覚し、友だちと協力して学習しようとする	○具体的な事象に興味関心を持ち、そこから自分たちが解決すべき問題をつかみ、進んで調べようとする ○地域の人や課題解決に関わる人と積極的に関わろうとしたり、まわりの人と協力して学習しようとする
思考・判断	○具体的な学習課題を持ち、学習の計画を立て、めあてや見通しを持って学習することができる ○課題に迫るための追究方法や、自分たちが調べたことを多くの人に伝える方法を考えることができる	○具体的な学習課題を持ち、学習計画を立て、めあてや見通し、目的を持って学習することができる ○課題に迫るための追究方法や、自分たちが調べたことを多くの人に伝える方法を考えることができる
技能・表現	○いろいろな方法で必要な情報を収集し、学習に活用することができる ○調べたことやわかったことなどを自分なりにまとめ、相手にわかりやすく表現することができる ○自分の考えと相手の考えを比較しながら話し合う	○課題解決に必要な情報を目的に応じて収集し、学習に活用することができる ○自分が調べたことやわかったことを、様々な方法でわかりやすくまとめて、表現することができる ○自分の考えをはっきりさせ、相手や目的に応じて話し合う
知識・理解	○学習したことを振り返り、学習の中からわかったことやできるようになったことを理解し、自分の生活に役立てようとする ○地域の身近な人、もの、ことのよさを知ることができる	○学習したことを振り返り、学習の中から自分がやらなくてはならないことを自分の生活に役立てることができる ○地域の身近な人、自然、文化などのよさや特徴を捉えることができる

評価指標（評価基準表）	(2) ルーブリックにおける評価規準・基準の設定
ルーブリックの歴史	① ルーブリックとは
児童と教師で作るルーブリック	ルーブリックとは学習指導の結果、どの程度の成果が上がったかを評価するための評価指標（評価基準表）のことである。誕生は1980年代のアメリカ社会の社会的課題「学校の国民に対する説明責任」からであった。はじめはペーパーテストへ依存したが、子どもに過度の競争心をあおり、機械的な暗記学習が批判された。そこで、知・情・意の全体的な発達をトータルに捉える評価、結果のみならず学習過程を重視し、しかも他者と比べずそれぞれの個性的な発達を支援する評価が求められるようになった。結果だけでなく過程を重視する新たな評価のあり方として、オーセンティック・アセスメントと呼ばれる評価理念が開発された。ルーブリックは、この新しい評価理念を具体化したものとして開発された、評価のための採点指針である。ルーブリックは児童と教師で作成することに意義がある。児童とともにルーブリックを作ることにより、児童の達成目標に対する意識を強いものにすることができる。そして、それぞれ自分の学習における目標を明確にしていくのである。 しかし、本研究においては、ルーブリックを教師が作成した。児童は初めて総合的な学習の時間を学習するため、どのようなことを評価としていいかをよく理解していないと考えたからである。
児童の自己評価	② ルーブリックを作成する意義
教師の評価	単元の評価は学習過程において評価規準を具体化していく必要がある。そこで、指導計画を立てるときに、学習過程を見通して、ルーブリックを具体的に設定していく。これを設定することで、児童は学習の振り返りをするときの視点がはっきりし、この学習で自分ができるようになったことがわかるのではないかと考える。このようなルーブリックを設けることで、教師は子どもの状態を的確に効果的に見取り、評価の結果を支援・指導に生かすことができるだろう。それぞれの過程において、評価規準と基準を設定しているので客観的な評価をしやすい。だが、児童の行動観察や児童自身が行った自己評価だけでなく、ワークシートや児童が作成した作品などを見ていくことも必要である。
ワークシートの中の自己評価	③ ルーブリックを活用する工夫
	本研究では、ワークシートの中に、学習のねらいやルーブリックを書き入れる。これによって児童は、学習のねらいを確認でき、学習終了後、自分の書いたワークシートを見ながら、今日の自分の学びを確認し、自己評価をすることができるだろう。
IV 授業実践	
1 単元名	ゴーヤーのひみつをみつけよう
2 単元設定理由	(1) 教材観
ゴーヤーの産地	本校の地域は、野菜作りが盛んである。「ゴーヤー」は拠点産地指定を受け、栽培をしている作物である。また、県内外に知られたポピュラーな野菜で、知らない人はほとんどいない。だが、独特の苦みやにおいから嫌いだという子も多い。そこで普段あまり口にしないであろうゴーヤーの商品（ゴーヤー茶、ゴーヤーのお菓子）にふれさせたり、ゴーヤーの苗の植え付けをさせたりすることで興味を持たせる。自分たちで育てているものと、地域で栽培されているゴーヤーを観察させたり、比べさせたりすることで、自分たちが食べているゴーヤーの栽培方法や種類、歴史的な
ゴーヤーの観察	

身近な作物の
よさ

どに興味を持ち、調べようとする意欲がわくであろう。また、身近に栽培されている作物を調べることでそのよさを知ることができるだろう。

(2) 児童観（省略） (3) 指導観（省略）

3 単元の指導目標

ゴーヤーを通して、自分の課題を見だし、追究する学習を通して、身近で栽培されている作物のよさを知ることができる。

4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	①ゴーヤーに興味を持ち、疑問に思ったことを進んで調べようすることができる。 ②自分の役割を自覚し、学級の友だちと協力して学習することができる。
思考・判断	①自分なりに課題と学習計画を立て、めあてや見通しを持って学習することができる。 ②自分たちが調べたことを、多くの人に伝える方法を考えることができる。
技能・表現	①いろいろな方法で必要な情報を集めることができる。 ②調べてわかったことを自分なりにまとめ、表現することができる。 ③自分の考えと相手の考えを比較しながら話し合うことができる。
知識・理解	①地域で栽培している作物に興味を持ち、よさを知ることができる。 ②学習を振り返り、学習したことから得たことを自分の生活に役立てようとすることができる。

5 指導計画と評価計画

ゴーヤーのひみつを見つけよう ～植物をそだてよう～

過 程	時 間	学習活動	○評価規準 (評価資料)	観 点	評価基準			学び方技能	関連教科の単 元名と目標
					A	B	C		
ふ れ る ・ つ か む	1	総合的な学習の時間についてどのようなことをするのか理解する (オリエンテーション)	○総合的な学習の時間は、どのような学習をするのか理解できる (児童の感想)	知識・理解	総合的な学習の時間についてどのような学習をするのか理解し、興味を持つことができる	総合的な学習の時間について、どのような学習をするのか理解できない	総合的な学習の時間についてどのような学習をするのか理解できない	◇総合を考える技能 (総合的な学習の時間の手引き)	〔社会科） ・町探検をしよう ☆町探検をするための計画を自分たちで立てて探検する
	2	今までに知らなかったゴーヤーの姿にふれる	○ゴーヤーの商品にふれることで興味を持つことができる (児童の感想)	興味・関心・態度	ゴーヤーの商品にふれることで興味関心を持ち、疑問を持つことができる	ゴーヤーの商品にふれることで興味関心を持つことができる	ゴーヤーの商品に興味を持つことができない	◇「はてな」発見技能	
	3	ゴーヤーの苗を植える	○苗の植え方を教わり、植えることができる	興味・関心・態度	JAの人から植え方を教わり、説明を聞きながらゴーヤーの苗を植えることができる	JAの人から植え方を教わり、ゴーヤーの苗を植えることができる	ゴーヤーを植えることができない	◇観察や実物から問題を発見する技能	
	4	学習課題を決める	○イメージしたことから課題を決めることができる (ワークシート)	思考・判断	イメージしたことから自分で課題を決めることができる	イメージしたことからクラスのみなど考えて課題を決めることができる	課題を決めることができない	◇イメージ作り技能 (ウェビング) ◇調べたいことを考える技能 ◇課題を探す技能 ◇課題を決める技能	
	5	学習の計画を立てる	○自分が決めた課題をどのように調べるかを考えることができる (ワークシート)	思考・判断	どのように調べるか自分で考え学習に見通しを持つことができる	どのように調べるか友達と相談しながら考えることができる	どのように調べるか考えることができない	◇学習計画を立てる技能	

追究する	6 16	自分の課題について調べる	○ワークシートを見ながら、インタビューをしたり、本で調べたりすることができる (ワークシート)	技能・表現	ワークシートを見ながら、インタビューをしたり本で調べたりすることができる	ワークシートを見ながら、インタビューか本で調べるかのどちらかができる	調べ学習を進めることができない	◇見学技能（調べ学習の心得） ◇図書館の活用技能 ◇インタビューする技能 ◇観察をする技能 ◇ものづくりや生産活動をする技能 ◇話し合いをして考える技能	〔社会科〕 ・さあ町へ飛び出そう ☆資料収集の活動方法や留意点を捉えることができるようにする
	17 18	調べたことを相手がわかるようにまとめる	○調べたことを相手がわかる文(箇条書き)にまとめることができる (ワークシート)	技能・表現	ワークシートを見ながら、自分の力で短い文にまとめることができる	友だちや先生に聞きながら、短い文にまとめることができる	調べたことを短い文にまとめることができない	◇情報を整理する技能 ◇調べたことをまとめる技能	〔社会科〕 ・見つめてみよう私たちの町 ☆町探検で調べたことをポスターにして気づいたことを話し合う
	19 (本時)	ポスター作りの計画を立てる	○調べたことをポスターに書くためにレイアウトを考えることができる (ワークシート)	思考・判断	絵と説明のまとまりや字の大きさに気をつけてレイアウトを考えることができる	絵と説明のまとまりや字の大きさに気をつけてレイアウトを考えることができる	レイアウトを考えることができない	◇言葉や文で表現する技能 ◇絵で表現する技能 ◇調べたことをまとめる技能	
	20 22	クラスみんながわかるようにまとめることができる	○調べたことを相手がわかるように絵や図、字の大きさ、言葉に気をつけてまとめることができる (ワークシート)	技能・表現	絵と説明のまとまり、字の大きさや言葉に気をつけてまとめることができる	字の大きさやわかりにくい言葉に気をつけてまとめることができる	気をつけてまとめることができない	◇調べたことをまとめる技能 ◇いろいろな発表の方法を考える技能	
発表する	23	自分が調べたことを相手にわかるように発表することができる	○調べたことを相手にわかるように、声の大きさや態度の気をつけて発表することができる ○友だちの発表を聞いて、よいところを見つけることができる (児童の感想)	技能・表現	声の大きさに気をつけて、相手にわかるように発表できる 発表を聞いて友だちのよいところや初めてわかったことを見つけることができる	聞く人のところを向いて、声の大きさに気をつけて発表できる 発表を聞いて友だちのよいところを見つけることができる	相手にわかるように発表できない 友だちのよいところを見つけることができない	◇相手や目的に応じた発表の方法を考える技能 ◇友だちの発表を聞いてお互いのよいところを見つける技能	〔国語〕 ・自己紹介するスピーチをしよう ☆自分の知らせたいことを選び、声の大きさや話を考えて話したり、話し手の内容を考えながら聞いたりする
	24	自分の活動を振り返ることができる	○総合的な学習の時間でできたことを見付けることができる (ふりかえりカード)	知識・理解	総合的な学習の時間でできたことを見付け、ほかの学習でも生かそうとしている	総合的な学習の時間でできたことを見付けることができる	総合的な学習の時間でできたことを見付けることができない	◇自己を振り返る技能	

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

調べたことがみんなによくわかるようなポスターの書き方を考えることができる。

(2) 本時の授業仮説

○まとめ方のヒントのあるワークシートを手引きとして活用すれば、自分たちの調べたことをポスターにどのように書いたらよいかかわだろう。

○ルーブリックを活用した自己評価をすることで、自分の学び方のレベルを知り、学習の振り返りをすることができるだろう。

(3) 準備（省略）

(4) 展開

過程	学習活動	教師の支援	仮説の検証 (★) 本時の評価 (○)	教科の基礎・基本(▽) 学び方技能(◇)
導入 5分	・今日のめあての確認をする	・今日の活動の進め方をワークシートで考えさせる みんなに知らせるポスターの書き方を話し合って考えることができる		▽社会科 ポスターを作ろう (調べてきたことをポスターを使ってまとめることができる)
展開 30分	・ポスター作りの計画を立てる ・計画を立てたグループはポスター作りを始める	・前時で考えた箇条書きの文もポスターの中に書き込むことを確認する ・ポスター作りで気をつけること(絵と説明をバラバラにしない、まとまりに気をつけるなど)を考えさせながら書くことを考えさせる ・社会科で作成したポスターを見ながらわかりやすいもの(文字の大きさなど)、見やすいもの(色づかいなど)を考えさせる	★ワークシートを見ながらポスターのどこに何を書いていくのか考えることができる(観察、発言) ○みんなに知らせるポスターを話し合って考えることができる(思考・判断②)	◇調べたことのまとめる技能 ◇言葉や文章で表現する技能 ◇絵で表現する技能
まとめ 10分	・できたポスターの発表をする ・今日のふりかえりをする ・次時の予告をする	・できたところまでの発表をさせる ・ループリックを用いて自己評価をさせる ・今日の自分を振り返り、できるようになったことを考えさせる	★ループリックを見ながら今日の自分の活動を振り返りかえり、できるようになったことを書くことができる(ワークシート)	

(5) 本時の評価規準

表3は本時の評価規準表である。児童はこれを見ながら自己評価を行い、感想を書く。教師は、児童のワークシートや授業中の観察、児童の発言や作品などから評価規準表に基づいて評価をしていく。

表3 評価規準表

評価規準	評価基準		
	A	B	C
みんなに知らせるポスターを話し合って考えることができる(思考・判断)	絵と説明のまとまりや字の大きさに気をつけて考えた	字の大きさか、絵と説明のまとまりのどちらかに気をつけた考えた	どんなことに気をつけたらいいか考えることができない

7 授業の考察

〔授業仮説1〕

まとめ方のヒントのあるワークシートを手引きとして活用すれば、自分たちの調べたことをポスターにどのように書いたらよいかわかる

まとめ方がわかる 87%

教科での学習を生かす

図1のグラフは「ポスターへのまとめ方がわかりましたか」のアンケート結果である。結果から87%の児童が「よくわかった、わかった」と答えている。全員でヒントのあるワークシートの内容を確認をした。また、社会科で作ったポスターを見てわかりやすいポスターはどのようなものかを考え、作業を進めた。資料2の児童の感想からも、「ヒントがあってわかりやすい」「みんなとやってわかるようになった」という声もあった。これらの手だてを行うことで、児童は調べてきたことを自分たちで考え

てポスターにまとめていくことができると考える。

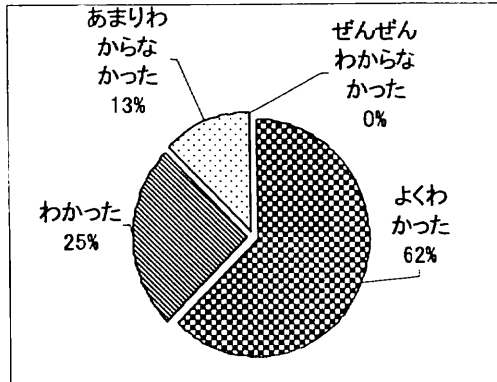


図1 ポスターのまとめ方はわかったか(24人回答)

〔児童の感想〕

- ヒントがあってわかりやすかった。
- よくわかって楽しかったです。
- 難しいところもあったけど、いろいろなことが書けて楽しかったです。
- 意味のわからないところもあったけど、みんなとやってわかるようになった。

資料2 ポスターのまとめ方の児童の感想

〔授業仮説2〕

ループリックを活用した自己評価をすることで、自分の学び方のレベルを知り、学習の振り返りを行うことができる

ループリック
で自己評価で
きた 91%

図2は児童がどのような自己評価をしたのかグラフにしたものである。ループリックを使って、今日の自分の活動について自己評価させた。自己評価できたのは、全体の91%であった。評価基準のAは45%、Bは41%、Cは5%であった。記入した児童は自分の活動を振り返り、自己評価をすることができたと考え。また、資料3の児童の感想から、めあてをしっかりと確認させると、めあてに沿った学習の振り返りができる。これらのことから、ループリックで自分の学習活動を振り返ることは有効であると考え。

自己評価でき
なかった理由

しかし、ループリックを使って自己評価できなかった児童が9%（2人）いた。A B Cの評価基準全部を評価している児童、書いていない児童である。全部を評価している児童は、感想から自己評価とグループのメンバーに対する評価の両方を、同じ表の中に書いていた。記入していない児童は、感想の部分は記入しているので、記入欄を見落としていると考えられる。記入させるときにはくわしく説明をする必要があるだろう。

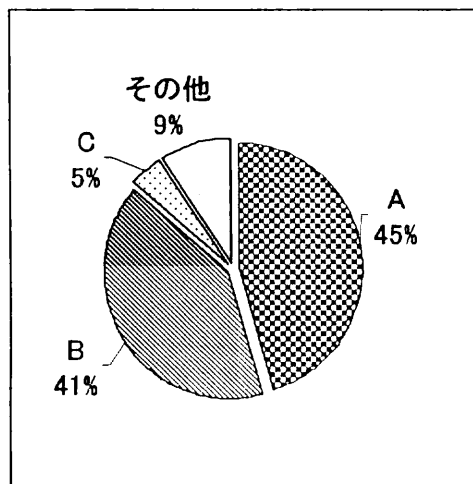


図2 児童の自己評価(24人回答)

〔児童の感想〕

- ・ YさんとTさんといっしょに絵をわかりやすくするにはどうしたらいいとか、文はどういうふうにしたらいいとかを考えることができてとても楽しかった。
- ・ ぼくはポスターが書けなかった。絵のアドバイスしかできなかった。
- ・ 友だちがポスターに絵をかいていたら何を書くか迷っていたのでいっしょに考えた。

資料3 児童の授業の感想

V 研究全体の考察

1 各学習過程で学習ヒントのあるワークシートを手引きとして活用することはできたか。

(1) ふれる・つかむ過程の考察

【考察】

図3のグラフは「課題の作り方がわかったか」のアンケート結果である。83%の児童が「よくわかった」「わかった」と答えた。「ふれる・つかむ」の過程で、ウェビングの仕方や、課題の決め方などについてワークシートを活用して学習をした。ウェビングでイメージしたことから課題を考え、決めていくことができた。ワークシートを活用した手だてをすることで学習の進め方が理解できたと考える。

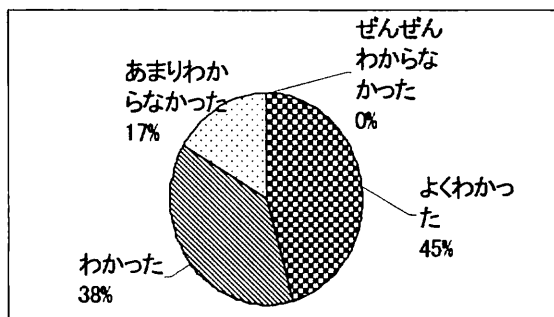


図3 課題の作り方がわかったか(24人回答)

(2) 追究する過程の考察

【考察】

図4のグラフは「調べる方法はわかったか」のアンケートの結果である。83%の児童が追究する方法が「よくわかった」「わかった」と答えている。追究する過程では「人に聞く」「図書館の本で調べる」という活動を行った。「人に聞く(インタビュー)」活動は社会科の単元で学習し、もう一度ワークシートを使って学習した。図書館の本で調べるときは、分類番号からどの棚に自分が調べたい本があるかを確認した。ワークシートを活用した手だてをすることで学習の進め方が理解できたと考える。

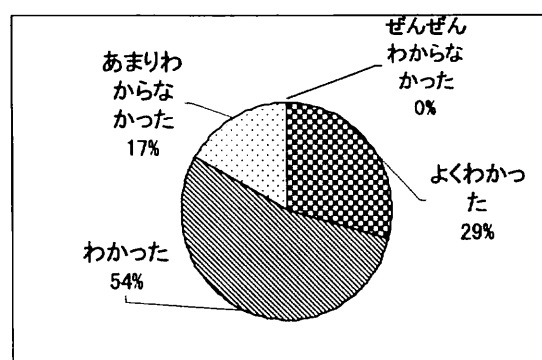


図4 調べる方法がわかったか(24人回答)

(3) まとめる過程の考察

【考察】

図5のグラフは「ポスターへのまとめ方はわかったか」のアンケート結果である。87%の児童がポスターのまとめ方が「よくわかった」「わかった」と答えた。「まとめる」過程では、社会科の単元でポスター作りを学習し、もう一度ワークシートを使って学習を進めることで、ポスターの書き方を理解でき、「まとめる」過程での学習の進め方が理解できたと考える。

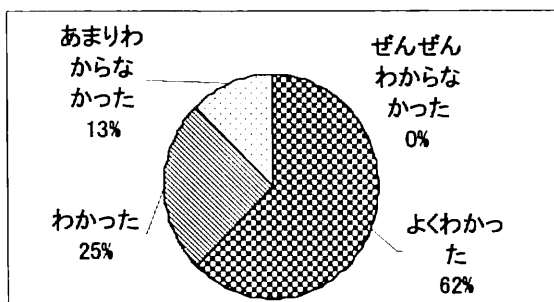


図5 ポスターへのまとめ方がわかったか(24人回答)

(4) 発表する過程の考察

【考察】

図6のグラフは「みんなにわかるように発表できたか」のアンケート結果である。80%の児童が「よくできた」「できた」と答えた。「発表する」過程では、国語の単元で学習した「スピーチのしかた」をもとに発表の仕方を確認した。教科で学習したことをワークシートを通して、総合的な学習の時間でも確認することで、相手に伝わる発表の方法を理解できたと考える。

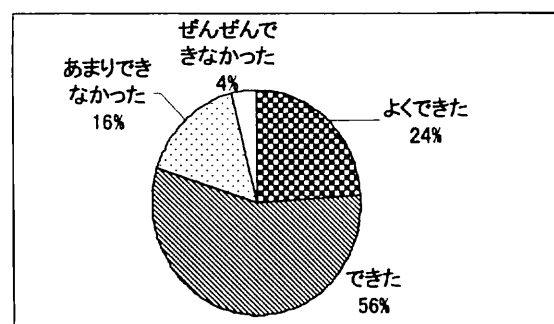


図6 みんなにわかるように発表できたか(24人回答)

2 ルーブリックを活用した自己評価をすることで、自分の学び方のレベルを知り、学習の振り返りを行うことができたか。

【考察】

図7のグラフは「ルーブリックでの評価はどうだったか」というアンケート結果である。「自己評価ができた」のは69%であった。ルーブリックがあることで、児童が学習の振り返りをするときの目安となり、学習を通して今日の自分の学び方のレベルはどうだったか知ることができたと考えられる。

しかし、児童から「難しかった」「どれにしていいかよくわからなかった」との感想もあった。ルーブリックの表現に児童が理解しにくいものがあったり、ルーブリックについての説明が足りないところがあったと考えられる。また、児童自身が自己評価をすることに慣れていないことがあったとも考えられる。

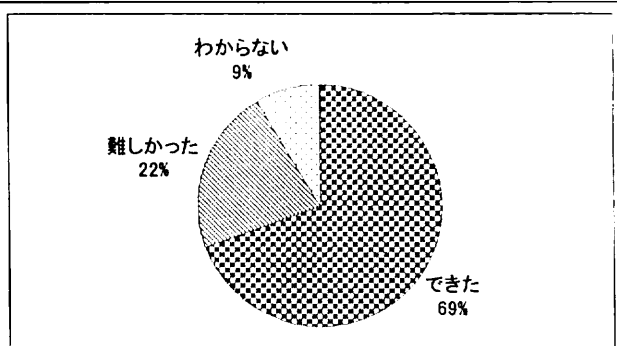


図7 ルーブリックによる自己評価(23人回答)

〔児童の感想〕

- ABCと分けてあるのでわかりやすかった。(9人)
- ABCを簡単に丸で囲むことはできた。(4人)
- 自分でどれくらいがんばったかがわかった。(3人)
- △難しかった。(5人)
- △どれにしていいかよくわからなかった(2人)

資料4 ルーブリックに対する児童の感想

3 「学び方技能」を身に付けることはできたか。

学習ヒントのあるワークシートを使って学習を進めることで、各学習過程においての「学び方技能」が身に付いたと考えられる。また、ルーブリックを使った自己評価をさせることで、自分の学び方のレベルを知った。学習の振り返りを行うことで、どんな「学び方技能」がわかったかを知ることができたと考えられる。

以上のことから、「学び方技能」を身に付けるのに、学習ヒントのあるワークシートを使って学習を進めることやルーブリックを使って自己評価させることは有効であるといえる。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 学習過程において学習ヒントのあるワークシートを使うことで、児童が総合的な学習の時間の進め方や学習の仕方を身に付けることができた

(図3～図6までのグラフ)

- (2) ルーブリック(評価基準)に基づいた自己評価することで、学習の振り返りをし、自分の学習のレベルについて知ることができた

(図7)

2 今後の課題

- (1) 児童がよりわかりやすいヒントのあるワークシート作成と指導の工夫

(資料2の感想)

- (2) 児童が学習目標を理解しやすいルーブリックを児童と教師がいっしょに作成する

(Vの2の考察)

〈主な参考文献〉

瀬川榮志監修	『学び方技能が育つ「総合的な学習」ワーク3, 4年』	明治図書	2001年
国立教育政策研究所	『総合的な学習の時間の授業と評価の工夫』		2005年3月
有田和正著	『総合的な学習に必須の学習技能』	明治図書	2000年
文部省	『小学校学習指導要領解説 総則編』		1999年
山梨県総合教育センター			平成15年度研究紀要